

2018年5月8日

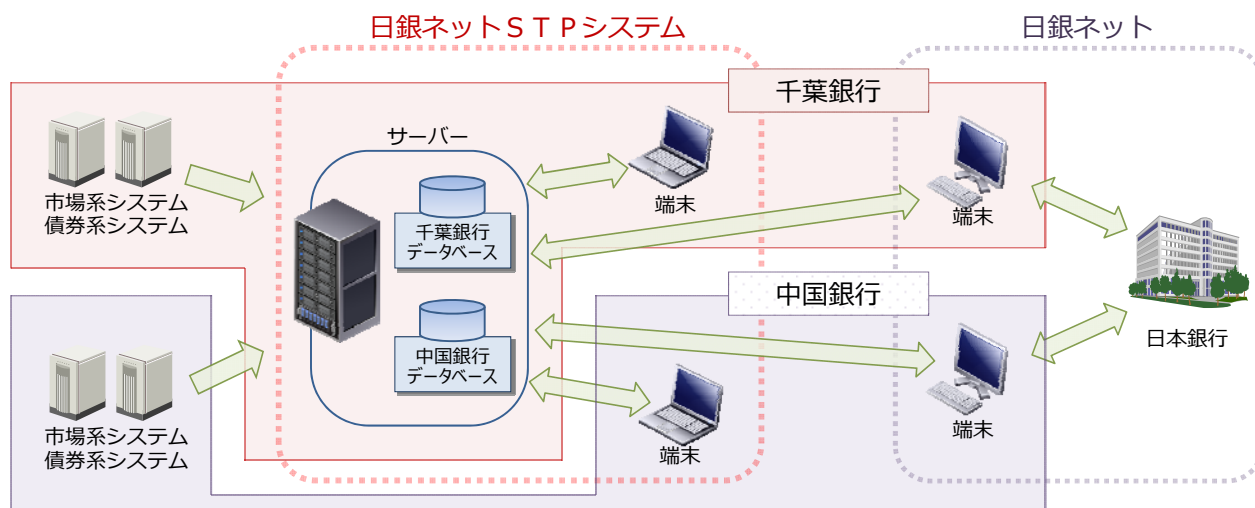
中国銀行との「日銀ネットSTPシステム」の共同利用について ～「TSUBASAアライアンス」連携施策～

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）と中国銀行（頭取 宮長 雅人）は、2018年5月8日（火）より、円資金・債券の市場決済業務における自動処理システム「日銀ネットSTPシステム」※¹の共同利用を開始しました。

両行は「TSUBASAアライアンス」※²に参加し、これまで基幹系システムの共同化等に取り組んでまいりました。今回、新たに導入する「日銀ネットSTPシステム」は、債券市場での決済期間短縮化の流れに対応するもので、システムを構成するサーバーを当行のシステムセンター内に設置し、これを共同利用していくことで開発費のほか保守や更改等にかかるコストの削減および事務の効率化を図ります。

両行は今後、市場取引における新たな規制やルール等が設けられた場合のシステム対応についても協力して取り組み、お客さまへより質の高い金融サービスの提供を目指してまいります。

【「日銀ネットSTPシステム」共同利用の流れ】



※¹ 日銀ネットは正式には日本銀行金融ネットワークシステムといい、日本銀行と民間金融機関をオンラインで結ぶ電子決済システムのこと。また、STP (straight through processing) とは、約定から決済に至る事務処理をシステムにより自動化し、人手を介せず一貫処理するものです。

※² 千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、北越銀行の7行が参加する地銀広域連携の枠組みです。

以上